

「さんべ夢ステージ」

1 趣 旨

- ・主体的に社会に参画しようとしている青年が、将来のリーダーとなるために、リーダーシップを身につける上での体験を通した学びの場を提供する。
- ・リーダーシップをキーワードに、企画・運営の様々な場面で合意形成・問題解決を繰り返す中で、対人関係能力、コミュニケーション力、意思決定力等リーダーとして必要な資質の向上を図る。

2 事業の概要

- (1) 期 日
- ①企画編 平成28年 8月27日(土)～ 8月28日(日)【1泊2日】
 - ②試行編 平成28年 9月 8日(木)～ 9月 9日(金)【1泊2日】
 - ③準備編 平成28年 9月30日(金)～10月 2日(日)【2泊3日】
 - ④本番編 平成28年10月14日(金)～10月16日(日)【2泊3日】

- (2) 参加者
- ①企画編 17名(大学生17名) ※募集20名
 - ②試行編 13名(大学生13名) ※募集20名
 - ③準備編 30名(大学生30名) ※募集40名
 - ④本番編 33名(大学生33名) ※募集40名

(3) 研修内容及び講師

【①企画編】

1日目	○アイスブレイク ○テーマ検討 ○班編成・話し合い
2日目	○企画の話し合い ○ふりかえり

【②試行編】

1日目	○アイスブレイク ○テーマ確認 ○企画についての検討・試行
2日目	○プレゼンテーション ○企画の見直し・試行 ○ふりかえり

【③準備編】

1日目	○アイスブレイク ○テーマ確認 ○班編成・準備
2日目～3日目	○企画の検討・準備 ○ふりかえり

【④本番編】

1日目	○テーマ確認 ○企画の準備
2日目	○企画の準備 ○企画の運営「さんべ祭1日目」
3日目	○企画の準備 ○企画の運営「さんべ祭2日目」 ○ふりかえり

3 事業の内容

(1) 事業の特色

参加者の主体性・自主性を育てていくことが、事業全体を貫く大きなテーマである。このテーマを実現するため、「先輩が次世代を育てていく」という三瓶伝統のスタイルを活かし、参加者一

人ひとりが主体的に活動に取り組むとともに、「組織作り」の在り方についても考えていくことができるよう、グループ編成・リーダー等の役割の設定を行った。個人内での成長を見取るとともに、一人ひとりの役割を明確にするため、募集人数を前年度 50 名から 40 名に絞り込んだ。

(2) プログラムデザインと企画のポイント

「企画」「試行」「準備」「本番」の4展開に分けて、企画の立案から実際の運営に至るまでの流れを体験できるようにしている。「試行」の段階では、交流の家職員に対して企画のプレゼンテーションを行い、よりよい企画となるよう見直しを図る段階を設定した。また、各回の参加者に若干の入れ替わりがあるため、企画書や準備シート等を活用して企画の引継ぎを行い、参加者同士の意識統一が図れるようにした。

4 成果と課題

《成果》

- ・ 募集人数を絞り込んだことにより、参加者一人ひとりの状況を捉えやすくなり、個に応じた支援ができるようになった。最初の参加動機が「お祭りの企画で、楽しそう」だったAくんが、小グループのリーダーを務めることとなり、本番後の振り返りでは、「本番まで多くの困難や大変さがあったけど、仲間と協力して乗り越えることができた。自分のなかで『一層成長したい』という思いが強くなった。」と記していた。主担当以外の職員も参加者のバックアップに回れるよう職員の支援体制を整備したことも、「困ったときに適切なアドバイスをもらうことができ、いろんな角度から考えるきっかけとなった。」等の肯定的評価につながったと考えられる。
- ・ 「参加者の主体性・自主性を育てる」というスタンスは、終始徹底した。これは、参加者の「これまでの誰かにやらされる企画と違い、全て委ねられている感じが強く、それが責任感につながった。」という感想にも表れていると考えられる。「夢ステージ」の応用編にあたる「冬ステージ」で、さらに継続して取り組んでいきたいポイントである。

《課題》

- ・ 「さんべ祭」という枠の中で企画を考えていく難しさもあるが、なかなかオリジナリティーにあふれる企画が生み出せなかった。企画の立て方について詳しく学ぶ教育事業「企画力・運営力アップセミナー」とつながりを持たせる等の工夫をし、企画対象の事業後の姿（ゴールイメージ）を明確にした企画の立て方を学び、活かしていくことが必要である。



(担当：企画指導専門職 大隅 雅浩)